

Point

J R 東海 労 大 阪 修 繕 車 両 所 分 会 分 会 情 報

No. 193 2014.03.01.

発行責任者

乾 眞規

編集責任者

教 宣 部

ビキニ環礁での米国の核実験から60年！今も島民は避難中！

1954年3月1日、東京から南東方向へ4000Km、太平洋のほぼ真ん中に位置するマーシャル諸島ビキニ環礁で、米国は、広島原爆の1000倍の威力の水爆「ブラボー」の核実験を行いました。この実験で、日本のマグロ漁船「第五福竜丸」も「死の灰」を浴び乗員23名が被爆し、半年後に無線長の方が亡くなっています。また、ビキニ環礁では、167名の島民が核実験前に別の島へ移住を強いられ、60年たった今でも島民の帰還は実現していません。

東日本大震災による福島第一原子力発電所事故から3年を迎えようとしていますが、現在も毎日300トンもの汚染水が海に流出し、メルトダウンした原発からは核燃料が格納容器を突き破り、地中に漏れ出していることも予想されています。また、4号機の核燃料プールには1535本もの核燃料が宙づり状態のままです。そして、未だに故郷に帰ることができない避難者は、15万人にもものぼります。

放射能と人間は共存できない！

先に述べたビキニ環礁での原爆の実験やこれまでに起きたスリーマイル島・チェルノブイリ・福島第一原発等事故により撒き散らされた放射能は、長い時を経た今でも決してなくなることはなく、未だに人間を脅かしています。

このような状況の中にあいながら、安倍政権は「原発再稼働」へ舵を取り、外国へ原発を売り込もうとしています。また、JR東海の葛西会長も「経済の生き残りに原発は不可欠」と原子力推進の発言を繰り返しています。決して許されることではありません。

今からでも遅くはありません。これ以上、未来への負の遺産を生み出さないためにも反核・反原発の闘いを推し進めていこうではありませんか。